

様式2

平成26年度 自己評価表（鳥取県立米子工業高等学校）

校訓 自律・創造・協働

最終評価

ミッション	「地域社会・産業界に貢献する人材の育成」	今年度の重点目標	1. 工業高校らしいエチケツト・マナーの育成 2. 授業改革・学力向上 3. キャリア教育による進路実現 4. 心の教育と部活動・生徒会活動の推進 5. ものづくり人材育成 6. 開かれた学校づくり
目指す生徒像	自主・自律の精神を持ち創造力豊かな 他者を思いやる人間を目指す		

年 度 当 初						評 価 結 果（2月）		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	評価基準	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
工業高校らしいエチケツト・マナーの育成 □	(1)全職員の一一致協力的指導(全体集会、集団行動(1年生オリエンテーション)、礼法指導(2、3年生))	・さまざまな行事の場面だけでなく、日常から指導を重ね、成果をあげてきた。	・職員全体が一致協力し、組織的に生徒への指導を行い、成果をあげる。	・教職員「一致協力して指導にあられた」「全体集会時の態度が良い」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・全体集会での指導に全職員で取り組む。	・礼法指導等1年生オリエンテーションの成果もあり、年々生徒の挨拶、マナーが向上している。 ・教職員の共通理解のもと協力して指導した。	A	・各学年とも合同LHR等でより細かく指導していく。
	(2)エチケツト・マナーの育成(挨拶の励行・態度等の指導)	・年間8回実施した頭髮服装指導で4回以上指導を受けた生徒が41名(7.7%)であった。	・挨拶励行・言葉遣い指導により生徒のマナーが向上する。	・教職員「前年度に比べて挨拶できた」「言葉遣い良い」生徒「前年度(中学の時)に比べてマナー向上」保護者「前年度に比べてマナー指導徹底」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・全職員で日常的な挨拶の励行に努める。 ・「マナーアップ運動」などで、部活動の生徒による挨拶運動に継続して取り組む。	・日常的に進んで声かけを行い、徐々に挨拶の習慣化ができてきた。 ・「高校生マナーアップさわやか運動」などを通じ、全職員であいさつ・マナー等の向上に努めた。 ・各部活動が参加して挨拶運動に取り組めた。	A	・挨拶の励行に努め、生徒自らが進んで挨拶できるよう努める。
	(3)生徒指導(頭髮服装指導)の徹底(生徒会との連携)	・一部の生徒で遅刻することの認識の甘さが目立つ者もいた。	・頭髮服装指導で指導を受ける生徒数を減少させる。	・頭髮服装指導で年間4回以上指導を受ける生徒数が減少すればA。※	・全職員で日常的に指導すると共に、定期的な頭髮服装指導、身だしなみの向上を図る。	・定期的に頭髮服装指導を実施し、担任と連携しながら粘り強く指導した。また、頭髮指導8回実施で4回以上の生徒数は46名(昨年度41名)であった。	C	・頭髮、服装など更なる日常的な指導の徹底を図る。 ・定期的な指導で複数回指導を受けている生徒への指導方法を工夫する。
	(4)遅刻指導の徹底(学年団・生徒指導部連携)		・諸問題に早期に対応し、連携を密にし、生徒の遅刻発生数を減少させる。	・各学期比較で遅刻10回以上の生徒数が50%以上減ならばA。※	・登校指導を通じて、全職員で指導に当たるとともに、早期から保護者への連絡を徹底する。	・学期に10回以上の遅刻者数は、1学期が1名(昨年度8名)、2学期が16名(昨年度17名)、3学期が6名(昨年度なし)、合計で23名(昨年度25名)であった。	B	・月毎に「遅刻強化週間」を設定するなど、「遅刻強化月間」の取り組み方法を検討する。
授 業 改 革 ・学 力 向 上	(1)授業を大切に する(授業改革)	・授業に集中し、基礎学力を定着させるため、発問・補助教材(プリント等)を工夫した。 ・本校では4名がエキスパート教員に認定されている。	・授業改革を進め、基礎学力を定着させる。 ・クラスの状況や生徒の理解度に応じて授業展開の工夫や補講・個別指導等を行う。	・教職員「授業・実習で学習意欲向上の工夫を図った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・生徒「学習意欲が高まった」「授業がわかる」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・エキスパート教員の実践を参考にしたり、研究授業、公開授業等各種研修の機会を活用するなど、相互研鑽を図る。 ・実習班の編成を工夫し、生徒による学び合いを推進する。	・授業参観週間を利用して他の授業を参観するなど研修の機会を持つことができ、指導方法等の改善に役立てた。 ・実習の編成を工夫し、学び合いの機会を設けた。	A	・他の教員の実践に学ぶ機会を充実させる。 ・生徒が相互に役割を分担し、互いに点検・確認できるよう、実習の内容や編成を工夫する。
	(2)基礎学力の 向上(SPI小テスト・模 試による基礎学力 向上)	・習熟度別授業の実施や、成績不振の生徒に対して補講等を実施してきた。 ・25年度はジュニアマイスター取得者が11名(ゴールド、シルバーの合計)であった。	・基礎学力を定着させ、就職試験等に対応できる力をつけさせる。	・基礎力診断テスト(1、2年生を対象に実施)の平均点偏差値55以上を維持する。※	・SPI小テスト、就職模試や基礎力診断テストなどを実施し、基礎学力の定着を図る。	・基礎力診断テスト(1、2年生を対象に年2回実施)の平均点偏差値55以上を維持した。 ・SPI小テストを実施し、1学期末のべ37名、2学期末のべ43名の低得点者に対して、補習指導を行った。	A	・基礎力診断テスト前の学習指導の改善を図る。 ・生徒の学力差に対応した取組を工夫する。
	(3)専門的資格 取得の促進(ジュニア マイスター取得者 増)		・ジュニアマイスター取得者を増加させる。	・12名以上の生徒がジュニアマイスターを取得すればA。※	・早期から資格取得の重要性を教え、早めの取組を促す。	・ジュニアマイスター取得者数は、ゴールド7名、シルバー18名、合計25名(実人数21名)に及び、大幅に躍進した。	A	・生徒への投げかけと、計画的な資格取得、補習を実施する。
キャリア教育 による進路実現	(1)系統だった キャリア教育による 進路意識・職業観の 育成	・25年度は就職希望者は100%内定した。	・健全な職業観・勤労観を育成し、進路適性の理解と情報の活用を促す。	・教職員「明確な進路意識確立できた」生徒「進路指導が充実している」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・進路決定につながる情報の提供をさらに強化する。3年生は学年合同LHRを実施する。また、1、2年生には学期毎のLHRを活用し、進路講演会を実施する。	・計画的にLHRや進路講演会、面接練習等を行った。県内外とも一次応募内定率は近年最高であった。	A	・生徒への情報提供の機会を確保し、キャリア教育の充実を図る。
	(2)コミュニケー ション能力の育成 による進路実現(1 分間スピーチ・面接 指導の充実)		・コミュニケーション力をつけ、進路実現につなげる。	・生徒「1分間スピーチはコミュニケーション力の向上に役立った。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・面接指導、個別指導等を実施するとともに、対話力を高めたり、作文指導を徹底する。2、3年生に、面接で実力が発揮できるようSHRで1分間スピーチを行う。	・3年生については、1分間スピーチ、面接練習等を精力的に行った。	A	・1分間スピーチ、面接練習等の指導方法を工夫し、コミュニケーション力の育成を図る。
	(3)インターンシ ップ・企業研修の 推進		・2学年全員で3日間実施する。 ・長期休業中に希望者で実施する。	・生徒「インターンシップは勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・報告会等で外部の方からも評価を受ける。※	・専門性のある企業開拓に務めるとともに、綿密な打ち合わせや事前指導を行い、研修を充実させる。	・アンケートでは肯定的な意見がほとんどで、生徒の評価は高かった。また、企業の評価も大変良好であった。	A	・次年度は環境エネルギー科のインターンシップが初めて実施されるため、受け入れ企業の開拓に努める。
	(4)企業研修旅行 の充実	・インターンシップ、企業研修旅行等で職業観の育成を進めた。	・県外の大手企業を見学することにより、職業観の育成をはかり、職業選択の一助とする。 ・専門に関わる企業見学により、専門の学習に役立てる。	・生徒「研修旅行は勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・生徒「企業見学は勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・研修先の精選と入念な計画により、効果的な研修となるよう努める。	・各科に応じた研修先を選定し、実施した。生徒の評価も良好であった。	A	・次年度以降もより良い研修になるよう、研修先の選定や内容・スケジュール等の検討を行う。

心の教育の推進と部活動・生徒会活動の推進	(1)部活動の活性化(部活稼働率の向上)		・運動部活動の奨励と強化、文化部活動の活性化を図り、加入率と稼働率の向上を目指す。	・部活動と同好会の加入率が80%以上ならばA。 ・部活動稼働率が95%以上ならばA。(1)	・クラブ一斉会議で部活動加入の意義を生徒会執行部より説明する等オリエンテーションを充実させる。 ・部活動を継続するための指導を徹底する。	・加入率は85.6%であった。(4月末時点) ・理由なく部活動に参加しない生徒は少数であり、部活動稼働率は97%であった。(12月末時点)	A	・顧問、担任等の連携により生徒理解に努め、学業と部活動との両立を支援する。
	(2)生徒会活動の活性化(学校祭・球技大会の充実、部活応援)	・25年度全国大会出場部活等は10であり、成果をあげた。 ・ゴミのポイ捨て撲滅に向け、生徒会が活動を展開した。	・生徒会を中心として自発的な活動ができるようにする。	・教職員「学校祭等とおしてリーダー育成が図れた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・学校行事等やLHRを通して、生徒の積極性を涵養する。コミュニケーション能力の向上と絡めて指導する。生徒が達成感を持つことができるように、生徒会を中心に学校行事に全員が関われるように工夫をする。	・学校祭では生徒の自発的な創意工夫が見られた。また、執行部がクラスのサポートや全体の運営などに自発的に取り組むことができた。	A	・生徒主体で具体的な立案、実施ができるように工夫する。
	(3)心身の健全育成	・朝読書等による全体の読書量は増えたが、学年が上がるとつれ、読書量が少なくなる傾向がある。	・静かに朝読書に取り組むとともに個別の読書指導も行う。	・生徒「読書量が増えた」「視野が広まった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・図書委員会活動や早朝貸出等の朝読書に関わる取組を推進する。	・朝読書は順調に取り組めている。また、強化週間における昇降口貸し出しなどに取り組んだ。	A	・読書の意義、意味を教える場をつくり一層推進する。
	(4)人権教育の推進		・一貫性のあるテーマで人権教育を推進するとともに、人権教育の4側面を充実させる。	・教職員「人権課題の解決に向けて推進できた」生徒「人権学習にしっかりと取り組めた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・人権教育部専任と担任団の連携を密にし、生徒の実態に応じた学年ごとの人権教育の具体的な取り組みを設定する。 ・生徒が主体的に参加できる人権教育LHRの展開を図る。	・公開LHRなどの準備をして、各クラスでしっかり取り組めた。 ・感想文などから、大半の生徒が主体的に問題を考える姿勢が伺えた。	A	・年間計画を見据えて、早めのLHRの準備に努める ・今年度の生徒の感想文などの内容を集約し、生徒の主体的参加をさらに促す授業計画を検討する
ものづくり人材育成	(1)TEASによる環境教育の推進(5Sの徹底)	・朝清掃を行い、環境への意識を向上できた。	・5Sを徹底するとともにゴミの減量化を図り、環境を大切にできる人材育成を推進する。	・教職員「5S徹底できた」生徒「掃除を頑張った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・引き続き、5Sの徹底を進め、加えて環境を大切にすることを育てる。	・昨年度よりゴミは減っている。また、5Sも浸透している。	A	・現状を維持できるよう努力し、改善すべきところがあればそのつど必要に応じて改善する。
	(2)ものづくり事業の充実(地域委員会との連携)	・ものづくりコンテスト等(電気工事部門、電子回路部門、マイコンカー)で全国大会へ3名が出場した。 ・地域委員会を各科の指導に生かしたが、継続できなかった。	・高校生ものづくりコンテストで上位入賞を果たす。 ・地域委員会に代わる委員会を創設する。	・教職員「ものづくりで成果があがった」生徒「技術・技能があがった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・ものづくりコンテスト等で全国大会出場生徒(団体)があればA。※	・ものづくりコンテストへの参加を推奨し、入賞を目指す。 ・地域委員会の趣旨を継続し、専門教育の改善を図る。	・若年者ものづくり競技大会電気工事職種で3位、電子回路職種で敢闘賞を受賞するなど、大きな成果をあげた。 ・地域委員会を継続し、専門教育の改善を図る。	A	・ものづくりの体験や専門家の話を聞く機会をとらえて、ものづくりコンテストへの参加意欲を喚起する。 ・地域委員の指摘を参考に、生徒が実習に積極的に取組めるよう工夫する。
	(3)安全教育の推進	・各科の実習で安全教育をすすめた。	・安全に対する予備知識の指導を徹底し事故が起きないようにする。	・教職員「安全教育が推進できた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・実習時に5Sと連動した安全面での指導の徹底を図る。	・実習や課題研究で取り組んだ。	A	・生徒が高い意識をもって安全に配慮できるよう、時宜を得た5S指導に努める。
	(4)プレゼンテーション力の向上(課題研究発表会)	・課題研究等を進める中で課題解決能力を育成することができたが、プレゼンテーション力の向上に課題がある。	・課題研究等あらゆる場面を通じてプレゼンテーション力の向上を図る。	・生徒「課題研究等を通じてプレゼンテーション力が向上した」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・科内発表会を充実させ、専門外の者が見てもわかりやすい発表にする。	・課題研究発表では、要点をまとめ、聞き手に分かりやすい発表を行うことが出来た。発表の態度も大きく向上した。	A	・伝える力、受け取る力を高める一環として、課題研究発表を下級生が参観できるよう改善する。
開かれた学校づくり	(1)地域社会や中学校との連携(公開実習・学校見学会の充実)	・昨年度は中学生や教員・保護者へ学校公開や体験学習をとおして本校教育についての理解をいっそう深めてもらった。	・地域社会や中学校等に工業教育についての理解を深めてもらう。	・教職員「中体験・学校公開等とおし、中学校や地域へ本校の内容を伝えることができた。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・中体験参加中学生「満足した」「興味を持てた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・中学生体験学習(7月)、学校公開(11月)に加えて、中学校教員対象学校説明会(6月)、学校見学会(10月、12月)を実施する。	・中学生等を対象とした行事を予定通り実施した。参加者数は次のとおりであった。中学生体験学習375名(昨年度319名)、学校公開・学校見学会49名(昨年度77名)、中学校教員対象学校説明会25名(新規)	A	・中学生の進路指導に寄与する取組となるよう、実施時期、回数、内容等の見直しを進める。
	(2)学校評価の充実		・学校が掲げた評価項目について、目標達成のための方策が適切に実施されている。	・学校関係者評価委員の意見を踏まえて評価を行う。※	・評価基準や目標達成のための方策等の見直しを視野に入れ、適正な評価を行う。	・評価基準や目標達成のための方策等の見直しを行った。	B	・アンケート項目の見直しを行い、より適正な評価となるよう努める。
	(3)ホームページの充実(保護者へのメール配信)	・HPを改善し、学校からの情報発信の充実に務めた。 ・保護者の協力体制は充実している。	・ホームページ更新、携帯メールの発信を充実させる。	・保護者「携帯メール等により学校からの情報がわかった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・積極的な情報発信に努める。	・ホームページの更新、携帯メールによる情報発信をは必ずしも十分とは言えなかった。	B	・ホームページで情報発信する内容等の整理を行う。 ・携帯メールの送信先の整理を行う。
	(4)PTA活動の推進		・引き続き、保護者・教職員との協力的指導が行えるようにする。	・PTA活動参加者数のべ500人以上でA。(2)	・PTA活動への参加の呼びかけを行う。	・本年度のPTA活動参加者数はのべ541人であった。	A	・今後とも広く参加を呼びかける。 ・行事予定、行事案内等の周知に努める。

26年度 評価基準	
アンケート結果によるもの(部活加入率も準ずる)	A 80%以上 B 70%以上～80%未満 C 60%以上～70%未満 D 50%以上～60%未満 E 50%未満
(1)の項目	A 95%以上 B 93%以上95%未満 C 91%以上93%未満 D 90%以上91%未満 E 90%未満
(2)の項目	A 500人以上 B 450人以上500人未満 C 400人以上450人未満 D 350人以上400人未満 E 350人未満

※の項目＝協議による